新潟大学佐渡自然共生科学センター

2025（令和 7）年度年次報告書

目次

1 佐渡自然共生科学センターについて 1

2 活動概要 1

2-1 各領域の活動概要 2

2-2 領域が連携して取り組む活動のハイライト 5

3 研究業績 8

3-1 研究論文・著書等 8

3-2 研究費 16

4 教育活動 17

4-1 学内の教育 17

4-2 佐渡 3 施設で実施した他大学等の教育 19

4-3 佐渡 3 施設で実施したその他の教育 20

4-4 施設利用状況 20

5 地域連携と社会活動 20

5-1 佐渡市との連携による事業 20

5-2 新潟県との連携による事業 20

5-3 その他の地域連携・社会活動 21

5-4 シンポジウム・セミナー等の開催 23

6 資料 24

6-1 報道関係 24

6-2 構成員 24

1 佐渡自然共生科学センターについて

新潟大学佐渡自然共生科学センター（以下，センターと略す）は，佐渡島にあった農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション（演習林），朱鷺・自然再生学研究センター，理学部附属臨海実験所の 3 施設が 2019 年 4 月に統合して，佐渡島の森里海の自然共生科学を展開する総合的な教育・研究センターとして発足した。本センターは森林・里山・海洋の各領域とコミュニティデザイン室（以下，CD 室と略す）からなり，佐渡島の森里海の生物多様性・生態系の仕組みを解明すると同時に，社会・歴史などとの複合領域の自然共生科学を追求し，佐渡島の豊かな自然環境を活かした持続可能な自然共生社会を提案し，教育・研究・地域連携・国際交流を推進するとともに，地域と創り上げるシチズンサイエンスの実現を目指している。

2 活動概要

2024 年度からは，センターの取り組みについて広く情報発信するためのセミナー等の開催を強化した。まず，センターの森・里・海各領域と CD 室で実施している研究や取り組みを学内に紹介する目的で，「ランチセミナー」を 2024 年 10 月から 2025 年 3 月にかけて 4 回実施した。2025 年度は「佐渡自然共生科学セミナー」と名称を変更し，2025 年 10 月から 2026 年 1 月にかけて 4 回実施した。また， 2025 年 11 月には日独連携シンポジウム「官・民・学で拓く自然共生社会―自然の豊かさは人や地域の豊かさにどうつながるのか？―」を開催した。新潟大学中央図書館ライブラリーホールを会場に，オンラインを含むシンポジウムには，計 122 名の一般市民と研究者（うちオンライン参加 55 名）が参加した。ドイツから講師を招き，ドイツ・エレベ川における欧州コウノトリの保全活動が地域社会とのつながりや経済的豊かさに与える役割について事例紹介を行うとともに，新潟や佐渡における保全活動とシチズンサイエンスの事例紹介を通じて、地域が豊かになる自然共生社会のあり方を議論した。他にも，佐渡市民を対象とした講座，ワークショップ等を多数開催した。

文部科学省の教育関係共同利用拠点事業では，森林領域と海洋領域を中心として，他大学ならびに本学学生を対象に実習等の対面での教育活動に加えて，オンラインコンテンツを利用したリアルタイムおよびオンデマンド型のハイブリッド形式の教育活動も展開した。

森里海が連携しての教育活動も継続実施した。3 つの領域の共同で「森里海フィールド実習（学内・学外対象）」を実施したほか，新潟大学の教養教育に関する授業科目（G コード科目）として「佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み」と「佐渡自然共生国際実習」を開講した。「佐渡学概論」では，当センターの教員の講義に加えて，他学部の教員が佐渡で展開している多様な分野の調査研究，地域事業について解説する内容で，佐渡島の自然と文化を包括的に学ぶ機会を提供した。

当センターでは，佐渡の生物多様性・環境等のオープンデータベースを作成し，佐渡自然史博物館構想と連動したシチズンサイエンスプラットフォーム構築を準備している。これまで，演習林が所蔵するさく葉標本 643 点のデジタル化をすすめて地球規模生物多様性情報機構（GBIF）

データベースへの登録手続きを進めると同時に，（国開）森林総合研究所に樹木 26 種の木材試料及びさく葉標本を提供し同研究所 TWTw データベースに公開された。また，臨海実験所では所蔵している 2,518 種からなる約 4,000 点に及ぶ日本海佐渡海域水生生物標本のデジタルデータをリスト化し JBIF への登録申請を行い，1964 年以降の海水温と透明度の定点観測データとともに臨海実験所ホームページにて公開した。里山領域においても，所蔵する昆虫標本のデジタル化を開始した。

また，公益財団法人上廣倫理財団からの寄附研究部門として立ち上げた「里山共生研究部門」においては，島内の小中高生を主な対象として森里海のフィールドを活用した多彩な学びの場を提供するとともに、セミナーなどを開催して次世代育成について地域の教育関係者や保護者とともに考える機会を創出した。

2-1 各領域の活動概要

森林領域／演習林

森林領域は，大佐渡北部稜線上に大学が所有する約 500ha の天然林・人工林を中心として，島内・島外の森林において植生学・森林生態学・種生態学・動植物相互作用学などの研究を展開すると共に，農学部・理学部の実習を担当し，教育関係共同利用拠点として他大学の実習も多数実施している。

4 月には本学に所属する内部委員及び外部有識者で構成される共同利用運営委員会の会議をオンラインで実施した。

5 月～10 月（無雪期間）に，公募型・受託型・フィールド利用型を主とした他大学共同利用実習，農学部及び自然科学研究科の学内実習，他学部による学内共同利用実習を行った。他大学共同利用実習 15 件，学内実習 8 件，学内共同利用実習 3 件が実施され，延べ利用者数は 1,265 名であった。新潟大の農学部・理学部を除く利用機関数は 32 であった。また，一般向け公開実習及びセミナーが 6 件実施され，延べ利用者数は 169 名であった（オンライン参加を含む）。学内外の一般利用（調査研究等での利用）の延べ利用者数は 944 名であった。また、新潟大学と一般社団法人佐渡観光交流機構との協働により認定されたエコツアーガイドが引率するエコツアーによる演習林への入林は，41 件（延べ 188 名）であった。

実習の公募や活動報告を行うために，ホームページ，ブログ，Facebook を随時更新して情報を発信した。2023 年度にリニューアルした演習林のホームページを随時更新し，動画コンテンツや演習林で保管されている植物標本の情報を集約することで，これらのコンテンツをより多くの人々が利用できるよう努めた。また，演習林や佐渡島内の自然に関する情報を発信するため，ブログ記事を頻繁に更新するように努めた（2025 年 4 月～2026 年 3 月に計 79 回）。演習林の紙媒体パンフレットの改訂を行った。また，昨年度に引き続きクリアファイル版のパンフレットについて 2025 年度は新たに 2 つのトピックを追加したバージョンを作成した。さらに，昨年度ま

でデジタル形式で発行していたニュースレターを動画形式で作成し，発信することで，若齢層を含むより多様な対象への広報の実現に努めた（2026 年 3 月末時点で 3 本の動画を公開）。

里山領域／朱鷺・自然再生学研究施設

里山領域では，新穂潟上にある朱鷺・自然再生学研究施設を拠点として，佐渡のシンボルであるトキの再導入生物学の確立や地域の生物多様性の実態の解明，生態系の復元手法の開発，自然共生に向けた社会システムの構築などにかかわる研究を進めている。自然科学と人文・社会科学の融合を図り，学際的環境科学を推進するとともに，地域住民や行政機関との連携による調査や教育活動にも取り組んでいる。

佐渡の里山の象徴である「トキをシンボルとした自然再生」ならびにトキと共生する島でさまざまな活動を展開する人びとのキャリアから学ぶ「私のローカルキャリア論」の座学に加えて「朱鷺・自然再生フィールドワーク」実習を実施した。また，専門科目として理・農学部学生を対象とした「自然再生学実習」を実施し，「里地里山再生学」，「希少生物保全学」を開講した。

文理融合の自然共生プロジェクトとして，ほ場整備におけるサドガエル保全を目指した取組を，行政機関・地域との連携のもと継続して進めた。具体的には，工事区域のサドガエルの保護活動を実施し，その後のモニタリングを行った。上述した「自然再生学実習」は，新潟県の協力を得てこの事業を題材として実施し，希少種保全と農業振興の両立を目指す現場の取り組みから学ぶ貴重な機会となった。

これまでの研究をとおして，サドガエルが当年変態・幼生越冬するかは個体の成長に強く影響を受けることが明らかになった。同様の生活サイクルをもつ近縁種ツチガエルも用いて，自然界における幼生個体の成長，ひいては，当年変態・幼生越冬の出現を左右する要因を明らかにするための研究を進めている。また，カエル幼生とその捕食者である肉食性の水生昆虫を用いた操作実験を通して，エサ個体の成長や性別に応じて「食う–食われるの相互作用」がどのように変化するかを解明する研究を進めている。

海洋領域／臨海実験所

臨海実験所は，フィールドワークを通して海洋生物の多様性とその成り立ちについての実践的高等教育を行うというミッションを基に，佐渡島に残されている豊かな自然環境と生物相を利用して，海洋生物の多様性と適応進化に関する高度な教育・研究を行っている。生物の多様性と普遍性の理解は，生物学の教育・研究の基礎となるものであり，2025 年度は，新潟大学理学部の生物学・地質科学・自然環境科学の各プログラム，理農横断型のフィールド科学人材育成プログラムの学生と自然科学研究科の大学院生を対象にした実習や講義を実施した。また，文部科学省教育関係共同利用拠点「佐渡島の森里海生態系における多様な生物相を活用した国際海洋生物学教育共同利用拠点」として教育共同利用活動を行った。2025 年度は，学内外の実習 26 件を含め，延べ 1,721 名（利用大学数 39 校、うち海外の大学 7 校）が利用した。国際臨海実習として「International Marine Biology Course 2025（IMBC2025）」を実施し，JST さくらサイエンスプ

ログラムの支援を受け，コーチン科学技術大学（インド），バングラデシュ農業大学（バングラデシュ），チャットグラム獣医動物科学大学（バングラデシュ），モナッシュ大学マレーシア校（マレーシア），サンウェイ大学（マレーシア），ハノイ国立教育大学（ベトナム），香港大学（中国）の海外 7 大学，国内 1 大学から学生・教員 15 名を招聘した。これらの招聘者に加えて，フランス国立持続可能開発研究所（ニューカレドニア）から 1 名の研究者がオンラインで参加し，新潟大学個性化科目「佐渡自然共生国際実習」の受講者を合わせた計 21 名が現地にて参加した。さらに，プログラムの一部をリアルタイム配信して，ハイブリッド形式による実習を実施した（オンライン参加者 58 名）。昨年度に引き続きオンデマンド実習教材の充実を図り，臨海実験所ホームページにて公開中の佐渡の海洋生物図鑑を随時更新した。現在は 277 種の解説が掲載されており，複数の動画が 1,000 回以上再生されるなど，実習参加者を中心に活用されている。
研究活動として，クサフグにおいて高水温がストレスホルモンであるコルチゾル分泌を刺激して生殖機能を調節する脳ホルモンの発現を抑制することや、環境汚染物質である六価クロムとマイクロプラスチックへの曝露によりナマズの成長や免疫機能が障害を受けることを明らかにした。また、棘皮動物ウミシダ類において、VEGF シグナル経路が同じ棘皮動物であるウニやヒトデとは異なる遺伝子間相互作用により骨格形成に関与する可能性を明らかにするとともに、佐渡島周辺に多数生息するアカシマコブウミシダが 10 ～11 月頃に生殖期を迎えることを見出した。加えて、佐渡島西岸の水深約 10 ～ 80 m に生息する底生生物相と、佐渡島西部真野湾の砂浜海岸における漂着生物相を明らかにした。また、佐渡島沿岸に生息する魚類の行動観察から、種間摂餌連合などの異なる魚種間の相互作用の成立には、特定の摂餌様式および底質環境が重要な要因であることを明らかにした。

地域・社会連携については，高校生を対象とした公開臨海実習を実施した。また，小中学生や一般の佐渡市民向けの実習の実施，講演会やイベントへの参加を行った。臨海実験所で所蔵する約 4000 点にも及ぶ日本海佐渡海域水生生物標本の情報を，日本生物多様性情報イニシアチブ（JBIF）のオープンデータベース上で公開した。

コミュニティデザイン室

佐渡島を舞台に，新潟大学ならびに外部の研究者や企業との連携を図りながら，自然共生という価値の追求と持続可能な地域の発展につながる実装型プロジェクトを推進するため，2020 年 1 月に開設された。

2022 年度に佐渡市・株式会社 NTT データとの共同研究として開始した「佐渡島自然共生ラボ」という自然共生をテーマとするリビングラボの企画・運営では，竹や海藻などの未利用自然資源の活用や，エシカル生産・消費の拡大，生物多様性佐渡戦略の改訂に向けたプロジェクトなどを地域ステークホルダーとの協働で展開し，自然共生社会の実現に向けた具体的な取り組みを推進した。また，佐渡市をフィールドに環境保全や持続可能な地域社会の構築に取り組む人々が参集し情報交換を行う「自然共生のみらい会議」を昨年度からコーディネートしている。今年度は 10 月 25 日に開催し，60 組の環境活動について紹介する場を設け，アクターのネットワー

ク強化につなげた。

朱鷺の島地域再生人材創出事業では，佐渡市立理科教育センターとの連携講座である「学校教職員対象研修」を 4 回（参加者延べ 26 名），市民との共同企画による「里山生きもの勉強会」を 3 回（参加者延べ 44 名）実施した。本事業は 2026 年度より内容を大きく改訂し，自然共生社会の発展につながる人材育成を推進する予定である。佐渡市関係部署や環境保全に従事する人びとに対して、そのためのニーズ調査などを実施した。

里山共生寄附研究部門

2024 年度に開設した寄附研究部門では，佐渡島の森里海をフィールドに，中高生や若者を対象とした学びの場づくりを進めている。探究心を刺激する学びの支援や，学校に通えなくなった子どもたちの学習サポート，多様な学びのあり方を考えるセミナーの開催などを通して，また地域住民との連携で，子ども・若者がそれぞれの個性や興味関心を追求できる学びの機会の提供と支援体制の構築を行っている。今年度は，中高生を対象にした「里山共生ユースアカデミー（全 12 回）」を開催したほか，若者や地域住民との里山維持活動を継続して行った。

また，英国のシューマッハ・カレッジと協力し，芸術と自然を基盤としたオルタナティブ教育についてのセミナーの開催や，若者が自然とつながり，時間の流れの中での自分自身および人類の進化について考えるためのワークショップを実施した。

学習に難しさを抱えている子どもたちに対する学習支援では，プロジェクト型の学習を通して小学生が社会の中で自己を表現する機会を設けた。また、就労に向けての支援の面では，佐渡島内で一次産業，ものづくり，森里海にかかわる仕事につく方々を訪問し，作業を体験する「佐渡のお仕事見学ツアー」を５回実施し，子どもたちが将来の職業選択について考える一助となるような機会を提供した。

また，市内で環境保全活動や地域活動に取り組む方々を講師に招き，体験活動や座談会を行う中で，大人たちが子どもたちとどのように関わることができるのかを考える「地域で子どもたちを育てよう おはなし会」を３回実施し、移住された親子などを中心に各回 20 名ほどが参加した。また、教育委員会と島内のフリースクールで定期的に情報交換し、多様な学びの土台構築を図った。

2-2 領域が連携して取り組む活動のハイライト

森里海の研究

(ア)　研究推進委員会の設置

2025 年度にセンター内の各種委員会を再編し，「研究推進委員会」を設置した。本学の第４期中期目標期間（2022～2027 年度）中における本センターのロードマップで掲げる「第４期中に，代表として１件以上の科研費大型種目の受入」に向け，センター内の研究を推進することを目的に設置した。

本委員会は各領域から 1 名ずつ委員を選出し，公開セミナーや公開シンポジウムの開催，大型

研究費獲得に向けた検討等を主な業務内容としている。セミナーやシンポジウムの企画・運営や，後述する「大学改革プロジェクト」の推進に関する議論で中心的な役割を担っている。

（イ）「大学改革プロジェクト」の新規採択

学長のリーダーシップの下で，第４期中期目標・中期計画等の達成，「新潟大学将来ビジョン2030」の実現，社会の要請に応えることを目的とし，社会的インパクトの創出に繋がる重点支援事業へ集中投資を行う「大学改革プロジェクト」の募集が学内で行われた。センターからは新規プロジェクトとして「佐渡島・自然共生社会の実現に向けた学・民共創型の自然・社会資源データベースの構築」を申請し，学内審査の結果，無事に採択された。

本プロジェクトは，佐渡市の自然史博物館構想の支援を基軸として，学術研究と社会実装を両立させるための統合的情報基盤の構築を目的としており，具体的には，佐渡島の多様な自然資源（動植物，地質など）と社会資源（ダムや道路などインフラ情報，歴史的景観，文化など）に関する情報を，地理情報システム（GIS）を用いて統合的なデジタルデータベースとして構築するものである。佐渡市が保有するデータ，トキ野生復帰事業に取り組んできた里山領域の生物情報，海洋領域における海洋生物標本や長期間の海洋観測データ，森林領域における天然スギのモニタリング情報に加え，本学五十嵐キャンパスの教員らと進める環境研究総合推進費 S21 プロジェクトの成果も取り込み，これらの情報を統合的なデータベースとして組み込み，それらの可視化を目指す取り組みである。

本プロジェクトの事業期間は 2028 年 3 月 31 日までとしており， 2025 年度は統合データベースの構築に向け，各領域の教員と自然資源（自然史博物館の専門家等）・社会資源（防災や観光分野に精通する専門家）の GIS データベースに詳しい専門家を招聘したアドバイザー会議を開催し，年度内に自然系・社会系データベースの項目の抽出と整理，GIS データへの紐付け，統合データベースの構築体制を整理する。

（ウ）佐渡自然共生科学センターシンポジウムの開催

2025 年 11 月 5 日に日独連携シンポジウム「官・民・学で拓く自然共生社会―自然の豊かさは人や地域の豊かさにどうつながるのか？―」を開催した。ドイツ・リューネブルク大学・教授の Johannes Prüter 氏からユネスコ・エレベ川バイオスフィアリザーブにおける自然共生社会の実現に向けた産官学連携について基調講演をいただいたほか，国土交通省北陸地方整備局の山崎憲人氏、新潟大学大学院自然科学研究科の向井喜果氏、新潟国際情報大学・教授の藤田美幸氏、新潟県水鳥湖沼ネットワークの佐藤安男氏から新潟や佐渡における保全活動の事例を紹介いただくとともに，本センター教授の豊田光世から佐渡のシチズンサイエンスに関する取り組み報告を行った。シンポジウムの最後には，本センター准教授の本間航介及び同准教授の大森紹仁が加わり，本センター教授の河口洋一が司会を務め，自然共生社会のあり方について総合議論を行った。

（エ）佐渡の川で発見された新種の淡水ゴカイに関する研究

本研究では，海洋領域の大森紹仁准教授と、元当センター里山領域の満尾世志人准教授（現 長野大学)、岸本圭子准教授（現 龍谷大学)、および名古屋大学等との共同研究で、佐渡島内の川から新種の淡水ゴカイ（カワスナゴカイ *Pisione mizuchi* ）を発見した。本種が発見されたきっかけは新潟大学の学生実習であり，その後の共同研究により佐渡島内の各所に生息することが明らかになった。ゴカイの仲間において淡水に進出したグループは限られており、特に今回発見されたカワスナゴカイが属するウロコムシの仲間では極めて稀で、日本では初めて、世界では２例目の発見である。また、本研究ではDNA情報をもとに初めて淡水性種を含むウロコムシ類の系統樹を作成した。その結果、カワスナゴカイは海棲の近縁種から特異的に淡水に進出した種であることが明らかになった。本研究を元に、生物の進化の過程における重要なイベントである「海洋生物の淡水環境への進出」の解明が進むことが期待できる。

森里海の教育

森里海の野外生態実習

佐渡島は，森，里山，里地，川，海が近い距離に存在し，それらの生物多様性やつながりを学ぶ絶好のフィールドである。この環境を活かして，森里海の3領域の連携で，新潟大学の全学部生を対象とする新潟大学個性化科目，及び全国の大学生を対象とする公開臨海実習として「森・里・海フィールド実習」を毎年夏に行っている。約1週間の行程で，トキの野生復帰の現場や里山の環境，河川や海の生物の観察，島ならではの森や植生の観察，人と自然との関わりに関する学習から，生物多様性やそれらのつながりを理解することを目的としている。

3 研究業績

3-1 研究論文・著書等

論文（英文・和文の順，筆頭著者アルファベット順）　※査読付き論文またはSCI雑誌掲載論文は「★」

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
1 ★	H. Abe, K. Kijima	DNA-based identification reveals the limitation of fecal size for distinguishing sympatric carnivores on Sado Island, Japan.	Mammal study	173–179	2026
2	H. Ando	Kobayashi Award 2024: Cyclic regulation of the reproductive neuroendocrine system in fish: Using migratory fish as a model.	General and Comparative Endocrinology 379	114916	2026
3 ★	K. Kawasaka	The nuclear-follower association between the zoobenthivorous *Asian sheephead* wrasse Semicossyphus reticulatus and the piscivorous Japanese amberjack *Seriola quinqueradiata*	Journal of Fish Biology 107(4)	1464–1467	2025
4 ★	Y. Kita, M. Nitta, H. Abe, S. Kaburagi, T. Fujita, K.Toyota, Y. Kondo, H. Kajihara	A new species of Pseudoacanthocephalus (Acanthocephala: Pseudoacanthocephalidae) from Sado Island, Japan, with a report of its accidental occurrence in a marine elasmobranch.**	Folia Parasitologica	10.14411/fp.2025.028.	2025
5 ★	S. Kubota, S. Ishii, T. Yamada, T. Sugiyama, Y. Taniguchi, Y. Kaneko,T. Nomura, H. Iwaisaki	Genetic diversity of the Japanese captive population of Crested Ibis *Nipponia nippon* estimated from pedigree analysis	Ornithological Science 24(2)	215–224	2025
6 ★	M. Miyata, K. Fukai, T. Fujita, H. Abe	First record of fossorial foam nesting in the Forest Green Tree Frog, Zhangixalus arboreus (Okada and Kawano, 1924) in Japan	Herpetology Notes	65–67	2026
7 ★	Y. Murakami, T. Atsumi, K. Naito, S. Sagawa, N. Yokoi, H. Iwaisaki, Y. Taniguchi	Diversity of the major histocompatibility complex region in the Japanese population of the Oriental Stork	Zoological Science 42(6)	532–539	2025

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
8 ★	T. Ohi-Toma, E. Oguri, H. Abe, H. Kato, M. Amano, Mong-Huai Su, Hanghui Kong, H. Nagamasu, A. Naiki	Phylogenetic Relationships of Eurya (Pentaphylacaceae) with a Focus on Japanese Species.**	Journal of Japanese Botany	100(5): 373–384	2025
9 ★	J. J. Ramatahal, K. Sugimoto, S. Phan, Tara Jambio Microplastic consortium, Y. Patouillet, R. Troublé, C. K. Luscombe, S. Agostini	An Integrated Assessment of Microplastic Pollution in Coastal Surface Water and Sediment of Japan	Environmental Science & Technology 59(33)	17746–17759	2025
10 ★	T. Sato, Y. Kawaguchi	Detection performance of an X-band marine radar system for free-flying Asian particolored bats (*Vespertilio sinensis*).	PLoS One 20(11): e0337422.	https://doi.org/10.1371/journal.pone.0337422	2025
11 ★	S. Shahriar, M. Zannat, M.M. Zahangir, E. Everman, H. Ando, M. Shahjahan	Co-exposure to hexavalent chromium and polyamide microplastics alters growth, hematology, histopathology of tissues and immune genes expression in striped catfish (*Pangasianodon hypophthalmus*).	Biological Trace Element Research	https://doi.org/10.1007/s12011-025-04948-9	2025
12 ★	Shan-Shan Sun, Shu-Han Xu, Wen-Jie Yi, Shi-Long Chen, Pan Li, D Takahashi, H. Abe, Xiao-Lei Ma, Peng-Cheng Fu	Incomplete lineage sorting, hybridization and polyploidization blurred phylogenetic relationships of gentians from the Qinghai-Tibetan Plateau.	Molecular Phylogenetics and Evolution	108476	2025
13 ★	S. Shimooka, Y. Mitsuo, K. Kishimoto-Yamada, A. Omori, N. Hookabe, N. Jimi	Freshwater colonization by a scaleless scale worm: *Pisione mizuchi* sp. nov. (Annelida: Sigalionidae), from Sado Island, Japan	Zoological Science 43 (2)	212-225	2026
14 ★	S. Sogawa, I. Inoue, S. Awata, K. Ikeya, K. Kawasaka, M. Kohda	Three-spined sticklebacks recognize familiar individuals by facial recognition	Royal Society Open Science 12(7)	241888	2025
15	上村こころ，中野陽介，崎尾 均	福島県伊南川本流におけるハリエンジュの分布と河川環境	植生学会誌 42	91–98	2025

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
16 ★	河口洋一, 平松隼人, 安達直之, 山城明日香, 佐藤雄大	徳島県鳴門市の稲田と蓮田におけるコウノトリの餌生物量の違い	土木学会論文集 Vol.81	No.26, 25-26020	2025
17	豊田光世	子ども主体の柔軟で手応えのある学びの実践とポイント：p4c-子どもの哲学-	LD, ADHD & ASD	28–31	2025
18	宮田雅也, 原田海斗, 阿部晴恵	新潟県粟島におけるトカゲ属 Plestiodon の初記録	爬虫両棲類学会報	(1)39–40	2025

書籍（英文・和文の順，筆頭著者アルファベット順）

	著者名	タイトル	書籍名（編者）	ページ	出版社	年
1	岩浅有記，豊田光世	政策・地域自治の側面からの市民科学アプローチ：佐渡におけるトキの野生復帰を例に	市民科学：自然再興と地域創生の好循環	85–111	筑波書房	2025
2	大森紹仁	棘皮動物	カラー図解 水の中の小さな美しい生き物たち―小型ベントス・プランクトン百科―（編：仲村 康秀・山崎 博史・田中 隼人）	308–311	朝倉書店	2025
3	川坂健人	顔認知：顔による個体識別、全体処理、部分処理	動物の行動と心の辞典（編：日本動物行動学会、日本動物心理学会）	105106	朝倉書店	2025
4	崎尾 均	佐渡島	図説日本の里山	70–71	朝倉書店	2025
5	崎尾 均	森林限界	生き物と温度の辞典	302–303	朝倉書店	2025
6	崎尾 均	樹木の生育環境とストレス応答	樹木医学講座 1	14–15	海青社	2026
7	佐藤雄大	コウモリの温度適応	生き物と温度の事典（編：富永真琴，加塩麻紀子，関原明，永島計，山口良文）	266–267	朝倉書店	2025
8	豊田光世	重なり合う環世界で共に生きる	人間が「人間」となるためのコミュニティ：環境・共生・協働（編：富坂キリスト教センター）	138–156	いのちのことば社	2026

報告書等

	著者名	タイトル	報告書名	ページ	年
1	阿部晴恵	人間活動が草原性植物のポリネーターシフトに与える影響_伊豆諸島自然草原と伊豆半島半自然草地との比較	公益財団法人市村清新技術財団 2024年度年報	106	2025
2	阿部晴恵	日本の森林樹木の地理的遺伝構造（50）ヤブツバキおよびユキツバキ（ツバキ科ツバキ属）	森林遺伝育種，15(1)	13–18	2026
3	祝前博明	黒毛和種の育種改良における遺伝的評価の進歩-外貌審査，BLUP 法，ゲノミック評価	日本畜産学会報第 96 巻第 1 号	49–51	2025
4	梶本卓也	離島で考える森林管理－佐渡島の森と林業－１	山林1967	19–27	2025
5	梶本卓也	離島で考える森林管理－佐渡島の森と林業－２	山林1968	11–19	2025
6	豊田光世	探究的な対話をつくる「P4C」	教育新聞・連載コラム（全10回）		2025
7	渡辺智美	子どもたちへの木育の実践から	R７佐渡流域森林・林業活性化情報	6	2026

国際学会・会議での発表（発表年月順）

	発表者名	タイトル	学会名	学会名	年月
1	H. Ando	Biological clocks that regulate lunar- and tide-synchronized spawning rhythm in marine animals	International Conference on Marine Biodiversity, Genomics and Sustainable development	Online/Cochin University of Science and Technology, India	2025/04
2	K. Kawasaka	The development of colour patterns reflects the transition of social status in a group-living cichlid	2025 Joint Conference of the Asian Society of Ichtyologists Anuual Meeting and the 12th Indo-Pacific Fish Conference	Taipei, Taiwan	2025/06
3	H. Ando, M. Zahangir, M. Shahjahan	Circasemidian transcriptome dynamics in the pineal gland of grass puffer, a semilunar spawner	The 19th International Conference of Comparative Endocrinology	Sendai International Center	2025/07
4	H. Ando, M. Zahangir, M. Shahjahan	Brain localization of TRPV1a mRNA and temperature-dependent expression in the diencephalon of grass puffer	The 19th International Congress of Comparative Endocrinology	Sendai International Center	2025/07

	発表者名	タイトル	学会名	学会名	年月
5	Y. Katada, K. Okimura, T. Yamaguchi, T. Nakayama, M. Maruyama, H. Ando, D. Kurokawa, T. Yoshimura	Comparative analysis of regional differences in spawning rhythms of grass puffer	The 19th International Conference of Comparative Endocrinology	Sendai International Center	2025/07
6	Ruiqi Zhang, H. Abe, Megan Mei Yan Low, Jamie Michael Kass	Why are flower colors geographically fixed? An integrative analysis of color polymorphism in Campanula punctata	The 11th EAFES International Congress	Tokyo	2025/07
7	M. Toyoda, J.E. Black	Passing on the Land: Intergenerational Actions to Conserve Rice Terraces	The 9th Conference of East Asia Research Association for Agricultural Heritage Systems	Cheju, Korea	2025/09
8	Y.Kawaguchi, T. Sato, H. Onikubo, Y. Akamatsu, R. Nakao, R. Yamanaka, S. Mori, Y. Muto, M. Kamada	Quantitative Environmental DNA Metabarcoding Reveals Fish Biodiversity Patterns in the Lower Reaches of Yoshinogawa River Basin in Tokushima	21st Japan–Korea Joint Seminar at the Tokai Region, Japan / Hosted by Ecology and Civil Engineering Nagoya Center for Environmental and Societal Sustainability (CENSS), Gifu University	Gifu	2025/10

国内学会・会議等での発表

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
1	大森紹仁	ウミユリ類より体制の進化を探る	2025年度 第１回形の科学研究センターシンポジウム	佐渡	2025/05
2	長部有沙，大森紹仁	ニッポンウミシダ発生過程における *vegf*，*vegfr* の発現解析	日本動物学会 第96回名古屋大会	名古屋	2025/09
3	小野寺尚美，石井森昭，山田宣永，杉山稔恵，谷口幸雄，金子良則，祝前博明	トキ飼育下個体群における孵化時および１歳時の生存性間の関連性の推定	日本鳥学会 2025 年度大会	札幌	2025/09
4	角野歩夏，南澤夏奈香，石井森昭，山田宣永，杉山稔恵，谷口幸雄，金子良則，祝前博明	トキ飼育下個体群の遺伝的多様性の近年における推移の評価	日本鳥学会 2025 年度大会	札幌	2025/09

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
5	河口洋一, 関島恒夫, 豊田光世	佐渡島におけるトキ野生復帰の手続き	応用生態工学会 第28回新潟大会 自由集会(FC1-01)	新潟	2025/09
6	北 悠樹, 新田理人, 阿部晴恵, 柁原 宏	思わぬところから未記載種発見-佐渡島のヤマアカガエルに寄生する鉤頭虫研究と今後	第16回蠕虫研究会	大分	2025/09
7	兒玉博之, 河口洋一, 佐藤雄大	サシバの渡り期における飛翔高度の特徴	応用生態工学会 第28回新潟大会	新潟	2025/09
8	小林幸平, 阿部晴恵	安定同位体を用いた都市公園におけるシマヘビの餌資源利用の季節変動	日本爬虫両棲類学会第 64 回大会	台湾	2025/09
9	坂田美樹, 大森紹仁	光受容関連遺伝子の発現解析に基づくニッポンウミシダの光受容器官の探索	日本動物学会 第96回名古屋大会	名古屋	2025/09
10	佐藤雄大, 三輪昌史, 河口洋一, 源貴志	複数の観察手法を駆使した夜間における飛翔動物調査の試み	応用生態工学会 第28回新潟大会	新潟	2025/09
11	鶴ケ谷柊子, 大森紹仁, 幸塚久典	ニッポンウミシダにおける色彩パターンの遺伝と成長に伴う色彩の変化	日本動物学会 第96回名古屋大会	名古屋	2025/09
12	豊田光世	地域課題に挑む共創のしくみづくり	日本保健福祉学会第38回学術集会	新潟	2025/09
13	萩尾華子, 川坂健人, 山本直之	魚独自の視覚路の進化と視覚認知の解明を目指して	日本動物学会 第96回名古屋大会(シンポジウム)	名古屋	2025/09
14	深井こるり, 阿部晴恵	佐渡島に生息するモリアオガエル（*Zhangixalus arboreus*）成体の移動ルートと生息環境の解明	日本爬虫両棲類学会第64回大会	台湾	2025/09
15	宮田雅也, 深井こるり, 阿部晴恵	モリアオガエルの広告音における環境間比較	日本爬虫両棲類学会第 64 回大会	台湾	2025/09
16	小林幸平, 阿部晴恵	安定同位体を用いた都市公園におけるシマヘビの餌資源利用の季節変動	日本爬虫両棲類学会第 64 回大会	台湾	2025/09
17	森信之介, 上月涼花, 内田睦, 阿部晴恵, 犀川陽子	ヤブツバキとユキツバキ：送粉者シフトに伴う報酬形質の変化	花粉学会第 66 回大会	京都	2025/09
18	結城栞, 石垣祥希, 大森紹仁, 荒木功人	多くの無脊椎動物門は、がん抑制遺伝子Cdkn2 を欠いている	日本動物学会 第96回名古屋大会（関連集会）	名古屋	2025/09
19	高津邦夫, 長部有沙	Does sex matter in tadpole inducible defence?	第41回個体群生態学会大会	京都	2025/09
20	崎尾 均, 上村こころ, 中野陽介	伊南川におけるハリエンジュの分布と繁殖特性	植生学会第30回大会	鹿児島	2025/10

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
21	河口洋一, 平松隼人, 安達直之, 山城明日香, 佐藤雄大	徳島県鳴門市の稲田と蓮田におけるコウノトリの餌生物量の違い	第53回環境システム研究論文発表会	福岡	2025/11
22	川坂健人，奥野聖也，佐藤駿	顔の模様の違いは血縁関係を反映するか？協同繁殖魚における模様の個体固有性の検証	2025年度日本魚類学会年会	東京	2025/11
23	嶋田実緒，豊田光世	サイエンスカフェを事例とした科学者と市民の認識的乖離の分析	南三陸いのちめぐるまち学会第4回大会	宮城	2025/11
24	安東宏徳	月周/潮汐同調産卵リズムの神経内分泌メカニズム	慶應義塾大学先端生命科学研究所セミナー	鶴岡	2025/12
25	遠藤 翼, 阿部晴恵, 川西基博, 崎尾 均	屋久島内におけるサツキの形態比較	第 13 回屋久島学ソサエティ	屋久島	2025/12
26	鬼久保浩正, 河口洋一, 佐藤雄大, 赤松良久, 中尾遼平, 山中亮一, 森紗綾香, 武藤裕則, 鎌田磨人	環境 DNA 定量メタバーコーディングを用いた徳島県吉野川下流域における魚類群集の多様性パターンについて	第8回環境DNA学会山口大会	山口	2025/12
27	飛田崚馬，大森紹仁	アカシマコブウミシダの生殖羽枝の季節ごとの組織構造	第21回棘皮動物研究集会	松山	2025/12
28	豊田光世	レジリエントな地域コミュニティを共創する：「佐渡島自然共生ラボ」の試み	日本看護科学学会第45回学術集会	新潟	2025/12
29	豊田光世，橋本善貴，山際勇也	p4cを生かした教科学習とその副次的効果	新潟大学附属校園×大学　研究交流ポスターセッション	新潟	2025/12
30	三輪昌史, 佐藤雄大, 河口洋一, 源貴志	鳥類の夜間行動監視のためのドローン運用	第26回計測自動制御学会	広島	2025/12
31	川坂健人	一夫一妻制シクリッド *Neolamprologus caudopunctatus*における配偶者認識	第24回東日本魚類生態研究会	館山	2026/02
32	漆原理心，高津邦夫	成長する餌種に対する小さな捕食者種の非消費型効果：餌種のサイズ構造に注目して	第73回日本生態学会大会	京都	2026/03
33	大森紹仁	サドナデシコナマコの生殖生態と発生	日本生態学会 第73回全国大会	京都	2026/03
34	川坂健人	なぜ魚は種間摂餌連合を形成するのか？野外観察から明らかにするその要因	日本生態学会 第73回全国大会	京都	2026/03
35	長谷川蓮，大森紹仁	佐渡島達者沖と真野湾の砂底における底生生物相の比較	日本生態学会 第73回全国大会	京都	2026/03
36	深井こるり，宮田雅也，阿部晴恵	佐渡島に生息するモリアオガエル成体の移動ルートと生息環境の解明	日本生態学会第73回大会	京都大学	2026/03

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
37	宮田雅也，深井こるり，阿部晴恵	平野に適応した佐渡島のモリアオガエルの鳴き声は山地と異なるのか？	日本生態学会第73回大会	京都大学	2026/03
38	遠藤翼，阿部晴恵，川西基博，崎尾均	屋久島におけるサツキの形態および遺伝的構造	日本生態学会第73回大会	京都大学	2026/03
39	相原美彩，高橋大樹，指村奈穂子，鈴木正樹，阿部晴恵	佐渡島と本州における10種の植物形態比較	日本生態学会第73回大会	京都大学	2026/03
40	川西基博，崎尾均，阿部晴恵	屋久島における渓流沿い植物群落および岩上植物群落の種組成と生活型組成の比較	日本生態学会第73回大会	京都大学	2026/03
41	岡崎純子，長谷川匡弘，阿部晴恵，水澤玲子，木下桂，川西遙，冨岡優衣，大川紗樹子	広域分布種ツリガネニンジンにおける島嶼と本土での昼夜の訪花昆虫の繁殖成功の比較	日本生態学会第73回大会	京都大学	2026/03
42	張瑞琪，阿部晴恵，Jamie M KASS	地理構造が花色型を定め、環境差が中の連続変化を生む：ホタルブクロを例に	日本生態学会第73回大会	京都大学	2026/03
43	蕪木史弦，高川晋一	若手で考える、これからの生物多様性保全	日本生態学会第73回大会	京都大学	2026/03

【研究集会等の開催】

・19th International Congress of Comparative Endocrinology, “JSEC 50th anniversary Symposium: Kobayashi Award of JSCE: Past Contributions and Future Directions in Comparative Endocrinology” 2025/07（安東宏徳ほか）

・応用生態工学会第28回新潟大会自由集会, 2025/09（河口洋一ほか）

・日本学術会議公開シンポジウム「複合的地球環境問題へのヒューマンディメンションからの問い」2025/08（豊田光世ほか）

・日本生態学会第73回大会自由集会「日本から発信する島嶼生物学７：人によって持ち込まれた島の生物」京都大学 2026/03（阿部晴恵ほか）

・日本生態学会 第73回全国大会「魚類行動生態学における野外観察と室内実験の統合：方法論的課題と展望」2026/03（川坂健人ほか）

【受賞】

・兒玉博之，河口洋一，佐藤雄大．応用生態工学会第28回大会優秀ポスター発表賞，サシバの渡り期における飛翔高度の特徴

・佐渡島自然共生ラボ「海藻の新たな可能性を探究するプロジェクト」2025ジャパン・サステナブル・シーフードアワード

・漆原理心，高津邦夫．第73回日本生態学会大会ポスター賞最優秀賞（動物群集/Animal

community 分野），成長する餌種に対する小さな捕食者種の非消費型効果：餌種のサイズ構造に注目して

3-2 研究費

課題名	実施期間	資金制度名	氏名（代表・分担）
科学研究費助成事業			
野生動物と人社会の軋轢問題解決のためのp4cを応用した対話手法の開発	2025–2028年度	基盤研究（C）	豊田光世（分担）
植物の送粉生態型分化過程の解明：広域分布種の訪花昆虫シフトと開花特性の分化要因	2025–2027年度	基盤研究（C）	阿部晴恵（分担）
スズメダイ類をモデルとした社会認知研究	2024–2028年度	若手研究	川坂健人（代表）
注目されないけど，実は日本海離島がすごい！？生物進化における古くて近い島の役割	2024–2027年度	基盤研究（B）	阿部晴恵（代表）
個体成長に伴う食う-食われる関係の解消以降も捕食者種と餌種は影響しあうか？	2025–2027年度	基盤研究（C）	高津邦夫（代表）
地球温暖化による水温上昇と融雪出水増大が希少魚類の存続に及ぼす影響予測	2024–2027年度	基盤研究（C）	河口洋一（分担）
風力発電所の建設に対する鳥類の脆弱性および供用後の累積的影響を見える化する	2024–2027年度	基盤研究（A）	河口洋一（分担）
レーダーによるコウモリ類の飛翔判別と風車衝突リスク評価手法の開発	2024–2025年度	研究活動スタート支援	佐藤雄大（代表）
異なる自然攪乱に適応して渓流と山頂に分布するサツキの生存戦略	2023–2025年度	基盤研究（C）	崎尾 均（代表） 阿部晴恵（分担）
夜間の飛翔動物相と空域ニッチの利用状況の解明	2023–2025年度	挑戦的研究（萌芽）	河口洋一（代表）
魚類の社会的知性の基盤と神経基盤の解明：生態との関連性から探る魚類の高次認知	2023–2025年度	学術変革領域研究(B)	川坂健人（分担）
X線CTを用いた樹木萌芽生成プロセスの解明と薪炭林施業への応用	2022–2026年度	基盤研究（C）	本間航介（代表）
島嶼域の氷期遺存植生をモデルとした温暖化による森林植生の維持・成立機構	2022–2025年度	基盤研究（C）	崎尾 均（分担）
島嶼環境に直面した広域分布種の送粉生態型分化と侵入定着過程の解明	2021–2025年度	基盤研究（C）	阿部晴恵（分担）
その他公的競争的資金			
佐渡島の豊かな海を舞台に海洋環境モニタリング手法を学ぶハイブリッド型フィールド研修	2025年度	国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）	川坂健人（代表）
受託研究			
地域スケールの生物多様性と社会経済的要因からなる統合評価・シナリオ分析と社会適用	2023–2027年度	環境研究総合推進費・戦略的研究開発課題	豊田光世（分担）

民間財団等の競争的資金			
モリアオガエルはどこへ行く？：佐渡島におけるモリアオガエルの行動生態と保全戦略	2025–2026年度	公益財団法人内田エネルギー科学振興財団試験研究費助成	阿部晴恵（代表）
第３回 保全生態学 冬の学校 in豊岡	2025年度	公益財団法人中辻創智社	蕪木史弦（代表）
佐渡島のカエル類における森里の回廊としての河川の役割	2024–2025年度	公益財団法人河川財団	阿部晴恵（代表）
越冬幼生の出現と産卵タイミングの関係：佐渡固有種「サドガエル」の越冬戦略の多様性をもたらす要因の探索	2024–2025年度	公益財団法人内田エネルギー科学振興財団試験研究費助成	髙津邦夫（代表）
高水温による海洋回遊魚の生殖抑制機構の解明：ストレスホルモンの動態と作用	2024–2025年度	公益信託エスペック地球環境研究・技術基金	安東宏徳（代表）
Nanopore シーケンサーを用いた日本近海産 *Anneissia* 属ウミシダ類の分類学・系統地理学的研究	2024–2025年度	公益財団法人内田エネルギー科学振興財団試験研究費助成	大森紹仁（代表）
寄附金その他外部資金			
尻別川の湧水とイトウの越夏環境における研究助成	2025年度	株式会社ドーコン	河口洋一
ダム下流生態系研究部会における研究	2025年度	一般財団法人水源地環境センター	河口洋一
寄附研究部門「里山共生研究部門」	2024–2028年度	公益財団法人上廣倫理財団	豊田光世
共同研究「佐渡島自然共生ラボの運営を通じた産官学民連携の課題解決手法に関する研究」	2023–2025年度（継続）	株式会社NTT データ	豊田光世
環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系コアサイト	2008–2025年度（継続）	一般財団法人自然環境研究センター	崎尾 均（サイト代表）
環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系コアサイト	2004–2025年度（継続）	一般財団法人自然環境研究センター	本間航介（サイト代表）

4 教育活動

4-1 学内の教育

対象	講義名	開講時期	担当領域（副担当）
学部			
全学部			
全学年	基礎雪氷学	第 2 ターム	森
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	7/11–13	里
	佐渡自然共生国際実習	7/23–27	森・海
	環境学実習（副専攻）	8/19–21, 11/14–16	森
	森・里・海フィールド実習	9/8–13	森・里・海
	トキをシンボルとした自然再生	第 3 ターム	森・里
	地域災害環境システム学演習	第 3 ターム	里
	私のローカルキャリア論	第 3 ターム	CD
	地域を探る	第 3・4 ターム	里
	SDGs 入門	第 3・4 ターム	里
	佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	第 4 ターム	森・里・海
1,2,3 年生	環境生物学野外実習 C	3/2–6	海
2 年生	生態系を知る	第 2 ターム	里・森

対象	講義名	開講時期	担当領域（副担当）
理・農学部フィールド科学人材育成プログラム 3 年生			
	フィールド安全論	第 1 ターム	森・海
	野生植物生態学	第 1 ターム	森
	里地里山再生学	第 1 ターム	里・（森）
	環境政策論 a	第 1・2 ターム	森
	野生植物生態学実習	第 1・2 ターム	森
	自然再生学実習	8/18–21	里
	フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習	9/1–4, 9/16–19	森
	臨海実習 I	8/25–30	海（森）
	公開森林実習	通年	森
	環境生物学野外実習 B	通年	海
	希少生物保全学	第 3 ターム	里・（森）
	水圏生態学	第 4 ターム	海
理学部			
理学科 2 年生	海洋生物学実験	8/31–9/2	海
理学科 2 年生・農学科 2 年生	系統動物学	7/7–10	海
理学科生物学プログラム 3 年生	臨海実習 I	8/25–30	海（森）
新潟大学以外全学年	臨海実習 II	7/23–27, 8/25–30, 9/8–13, 3/2–6	海
理学科生物学プログラム 3 年生	生物学総合演習	第 3・4 ターム	海
	動物生理学 III	第 3 ターム	海
理学科生物学プログラム 4 年生	内分泌学演習	通年	海
	課題研究 I（生物学）	通年	海
農学部			
農学科 1 年生	新潟の農林業	第 3 ターム	森
	農学入門 I, II	第 1 ターム	森
農学科 2 年生	基礎農林学実習	5/17–18, 6/14–15	森
農学科 3 年生	生態系管理演習及び実習	第 3・4 ターム	森
	持続可能な森林管理演習及び実習	第 1・2 ターム	森
	生態モデリング入門	第 4 ターム	里
2, 3 年生	森林再生学	第 3 ターム	森
大学院			
自然科学研究科			
修士課程	森林生態学特論	通年	森
	野生植物生態学特論	通年	森
	島嶼生態学特論	通年	森
	希少生物学特論	通年	里
	先端臨海実習	8/25–30, 9/8–13	海
	環境ガバナンス概論	第 1 学期	森・里
	プロジェクト研究特別概説	第 1 学期	里
	流域環境思想論	第 1 学期	里
	神経内分泌学	第 2 学期	海
	自然再生学特論	第 2 学期	里
博士課程	森林生態系管理学 II	通年	森
	里地里山保全学詳論	通年	里
	島嶼生物地理学	通年	森
	環境ファシリテーター論及び演習	第 1 学期	森・里

対象	講義名	開講時期	担当領域（副担当）
	環境保全の合意形成論	第 1 学期	里
	適応統合生物学	第 2 学期	海
	保全生物学特論 II	第 2 学期	里

4-2 佐渡 3 施設で実施した他大学等の教育

対象	講義名	開講時期	担当領域
日本大学	特別演習 「海岸流木に生息する菌類相」の佐渡調査	4/30–5/2	森
東邦大学	野外生態学実習 II	5/26–29	森
新潟農業・バイオ専門学校	樹木学 I	6/4–6	森
静岡大学	島嶼生態学特論実習	7/1–3	森
三重大学	生物資源学研究科野外研修	7/7–11	森
東北大学など	佐渡自然共生国際実習	7/22–25	森
バングラデシュ農業大学（バングラデシュ），チャットグラム獣医動物科学大学（バングラデシュ），コーチン科学技術大学（インド），モナッシュ大学マレーシア校（マレーシア），サンウェイ大学（マレーシア），ハノイ国立教育大学（ベトナム），香港大学（中国）	さくらサイエンス招へいプログラム “International Marine Biology Course 2025”	7/23–27	海
東京都立大学	生態学野外実習	8/6–11	森
大妻女子大学	生物環境保全学ゼミ 臨海実習	8/6–9	海
浦和大学	自然科学・理科教育ゼミ 臨海実習	8/13–15	海
国際ペットワールド専門学校	佐渡臨海実習	8/15–18	海
大阪産業大学	生態学特別演習 2	8/19–21	海
立正大学	フィールドワークA	8/19–22	森
筑波大学	野生生物管理実習	8/25–29	森・里
公開臨海実習 全国 6国公私立大学	海洋生物多様性実習	8/25–30	海・ (森)
東京大学など	フィールドワーカーのためのリスクマネジメント入門実習	9/1–4, 9/16–19	森
近畿大学	水産生物学実習	9/3–6	海
大阪産業大学	生態学特別演習 1	9/8–10	森
公開臨海実習 全国 14 国私立大学	森里海をつなぐ野外生態学実習	9/8–13	森・里・海
慶應義塾大学	生物学実験集中	9/16–20	海
早稲田大学	高野ゼミ佐渡実習	9/22–23	海
長野大学	専門ゼミナール「佐渡臨海実習」	9/24–27	海
東北大学	農学部卒業研修	10/7–10	森
名古屋大学	農学部卒業研修	10/27–31	森
公開臨海実習 全国 5国私立大学	動物発生／行動学臨海実習	3/2–6	海

4-3 佐渡 3 施設で実施したその他の教育

対象	講義名	開講時期	担当領域／実施者
佐渡市民（小学3年生以上）	Tara-JAMBIOブルーカーボンプロジェクト「科学でひもとく！ブルーカーボン生態系のチカラ」	6/28	海
佐渡市小学生	佐渡市 こども環境学習会	7/30	海
県内外高校生等	新潟大学公開講座 高校生対象公開臨海実習	8/1–4	海

4-4 施設利用状況

演習林	他大学		学内		一般・小中高生	計
	実習	実習以外	実習	実習以外 所属学生含む	実習・研修等 エコツアー除く	
利用人数 (延べ)	605	158	651	726	18	2,140

朱鷺・自然再生学研究施設（キセン城）	実習活動 (延べ人数)	研究活動 (延べ日数)	その他 (延べ日数)
	41	28	254

臨海実験所	他大学			学内		一般 小中学校	計
	フィールド利用型実習	公開臨海実習	実習以外	実習	実習以外 所属学生含む	実習・研修等	
利用人数 (延べ)	648	176	313	317	2,785	248	4,487

5 地域連携と社会活動

5-1 佐渡市との連携による事業

1) 佐渡島自然共生ラボの企画・運営（佐渡市・NTT データ株式会社・新潟大学共同事業）
森里海の資源活用やエシカル生産・消費の拡大など自然共生社会の実現に向けた産官学民連携のさまざまなプロジェクトを展開する共創プラットフォームの運営を共同で行った。
2) 生物多様性佐渡戦略2030策定に向けた提案作成を農業政策課と連携して行った。
3) 佐渡市教育委員会と島内フリースクール運営者と共に、支援を必要とするほぼ者や子どもたちに情報を伝えるために「フリースクール見学会in佐渡」を共同開催した

5-2 新潟県との連携による事業

1) 新潟県佐渡地域振興局農林水産振興部との連携で，サドガエルの生息地における圃場整備事業の環境配慮計画や市民参加の学習機会の検討ならびに運営支援を行った。

5-3 その他の地域連携・社会活動

内容		実施日	会場	担当領域／実施者
小中高校の教育支援				
新潟県立羽茂高等学校	総合的な探究の時間オリエンテーション	5/7,5/13	佐渡市内	渡辺智美
佐渡市立金泉小学校	生活科授業「かえるの生活と飼育」	6/13	佐渡市内	蕪木史弦
佐渡市立高千小学校	臨海実験所施設見学	6/14	臨海実験所	海
佐渡市立河崎小学校	久知川の環境調査学習	6/19	佐渡市内	高津邦夫
新潟県立佐渡高等学校	「フィールドワーク事前講座」講師	7/4,7/11	佐渡市内	渡辺智美
佐渡市立高千小学校	出張授業	7/17	高千小学校	海
明誠高等学校	特別授業講師	8/9	佐渡市内	斎藤未沙
佐渡市立八幡小学校	「地域と共につくる学校」講師	9/3	佐渡市内	渡辺智美
新潟県立羽茂高等学校	海のワークショップ	10/22	臨海実験所	海
新潟大学附属新潟中学校	p4c を活用した道徳科の授業づくり	10/24	新潟中学校	豊田光世
新潟市明鏡高等学校	p4c の対話	11/14	明鏡高等学校	豊田光世
新潟大学理学部「にいがた“知の革新”STELLA プログラム」	トキと共生する農業	11/15	佐渡市内	豊田光世
佐渡市行谷小学校	コウモリから学ぼう生物多様性	12/4	トキ交流会館	佐藤雄大
学校教員向け研修				
コミュニティデザイン室主催	p4c（子どもの哲学）ワークショップ	4/17, 5/15, 6/13, 7/30, 8/22	トキ交流会館 オンライン	豊田光世
佐渡市立理科教育センター	佐渡学研修会 ①「佐渡固有生物生態研修会」	5/27	トキ交流会館	高津邦夫
福井県小浜市立第二中学校	p4c研修	6/9	小浜市立第二中学校	豊田光世
福井県小浜市立内外海小学校	p4c研修	6/10	小浜市立内外海小学校	豊田光世
福井県小浜市立美郷小学校	p4c研修	6/10	小浜市立美郷小学校	豊田光世
新潟県教育庁	令和7年度高等学校等生徒指導連絡協議会研修	6/19	新潟県立教育センター	豊田光世
新潟市立小須戸中学校	p4c研修	7/25	小須戸中学校	豊田光世
新潟県胎内市立築地小学校	p4c研修	7/29	築地小学校	豊田光世
佐渡市立理科教育センター	磯の生物の生態研修会	7/31	臨海実験所	海
日本生物教育会	新潟大会「佐渡研修」	8/10	臨海実験所	海
日本生物教育会	第79回 日本生物教育会全国大会　新潟大会 佐渡研修	8/11	大佐渡	崎尾 均

内容		実施日	会場	担当領域／実施者
福井県小浜市立第二中学校	p4c研修	12/1	小浜市立第二中学校	豊田光世
新潟県立佐渡高等学校	探究活動発表会の講師	12/17	佐渡市内	渡辺智美
福井県小浜市西津小学校	p4c校内授業研究会	1/21	小浜市西津小学校	豊田光世
市民向けセミナー・フォーラム等				
第1回野外ツアー	佐渡島アオネバ春の花	4/16	アオネバ	崎尾 均
第2回野外ツアー	佐渡島栗ヶ沢春の花	4/23	栗ヶ沢	崎尾 均
新潟県「にいがた棚田フォーラム」プレリュードイベント	パネリスト	5/11	あいぽーと佐渡	豊田光世
第3回野外ツアー	佐渡島アオネバ春の花	5/14	アオネバ	崎尾 均
第23回サイエンスカフェ	世界の気候と森林ー熱帯編ー	6/18	おにCafe	崎尾 均
第4回野外ツアー	金北山あやめ池	7/9	金北山	崎尾 均
第5回野外ツアー	小木・宿根木ジオパーク	7/9	小木・宿根木	崎尾 均
（一社）西粟倉むらまるごと研究所設立５周年記念シンポジウム	佐渡での市民参加の生き物調査	7/20	岡山県西粟倉村あわくら会館	豊田光世
Green Business Producers, 環境・地域・まちづくりビジネスの対話ワークショップ	自然共生と対話	8/8	あいかわ開発総合センター	豊田光世
宮城教育大学上廣倫理教育アカデミー「探究の対話（p4c）」実践発表会	ウェルビーイングの向上と「探究の対話（p4c）」	8/23	オンライン	豊田光世
防災推進国民大会2025	地域総合防災力の向上	9/7	朱鷺メッセ	豊田光世
只見町ブナセンター講座	イワナを育むブナの森：森と川のつながりを知る	9/7	ただみ・ブナと川のミュージアム	河口洋一
只見町ブナセンター　初秋のブナ林観察会	渓流が流れるブナ林を楽しむ	9/8	布沢・恵みの森	河口洋一
第24回サイエンスカフェ	歴史的な大陸移動と気候変動が生物に与えた影響	9/11	おにCafe	崎尾 均
智頭の山人塾　森林と樹木のサイエンスシリーズ	気候変動待ったなし−富士山の森林は登り続ける−	9/18	オンライン	崎尾 均
シンポジウム「SADO〜世界に誇る自然と文化〜」	花の島_佐渡島の自然環境はどのようにして成立したのか？	10/4	新潟青陵大学	阿部 晴恵
シンポジウム「SADO〜世界に誇る自然と文化〜」	佐渡の海で発見された新種の動物たち	10/4	新潟青陵大学	大森 紹仁
第25回サイエンスカフェ	あなたもわかる樹木の名前（初級編：20種）	10/8	おにCafe	崎尾 均
東京科学大学大橋研究室「自然栽培フィールドワークショップ」	対話ファシリテーター	10/12	千葉県いすみ市岬公民館	豊田光世
黒姫戴山参拝及び報告会	佐渡島の森と利用	10/19	演習林及び黒姫公民館	梶本卓也

内容		実施日	会場	担当領域／実施者
山形森林インストラクターの会 30 周年記念事業	気候変動と森林生態系～今後の森林管理で大切なことは～	10/25	山形県産業創造支援センター	梶本卓也
佐渡島自然共生ラボ『自然共生のみらい会議』	ポスター出展	10/25	あいぽーと佐渡	川坂健人
エネルギーをDIY!? 小水力発電フォーラム	佐渡歌見棚田での小水力発電	11/23	トキ交流会館	豊田光世
佐渡市の種火の会	種火の会・講師	11/28	佐渡市内	Jasmine E. Black
第26 回サイエンスカフェ	台湾の森林と植物	12/3	おにCafe	崎尾 均
世界仮想旅行社	民具に見る，自然の恵の活用	12/10	オンライン	崎尾 均
宮城教育大学・公益財団法人上廣倫理財団	探究の対話（p4c）研究会	12/13	オンライン	豊田光世
福井大学「対話（p4c）フォーラム in小浜市」	対話的学びの多面的意義：p4cを事例に	1/20	小浜市働く婦人の家	豊田光世
第七回多様な学びセミナー「自然体験学習について」	MORIUMIUSの事例から学び、佐渡での学びについて語る	2/13	子ども未来舎りぜむ	渡辺智美
学術変革領域B「認知進化生態学」『水族館がもっと面白くなる！水の中の生き物の社会・知性・脳の話』	ポスター出展	3/7	新潟市水族館 マリンピア日本海	川坂健人
トークイベント「僕が好きを仕事にした理由」	講師：上之山篤人氏、高野毅氏、本間涼氏	3/21	たたこう館	斎藤未沙
その他のイベント・社会教育活動				
新潟市水族館マリンピア日本海 企画展 『SADO ～世界に誇る自然と文化～』	企画協力	7/18–2/23	新潟市水族館マリンピア日本海	森・里・海
佐渡市 『子どものための科学祭り』	ブース出展	9/15	アミューズメント佐渡	海

5-4 シンポジウム・セミナー等の開催

名称	開催日	会場
2025年度新潟大学佐渡自然共生科学センター日独連携シンポジウム 「官・民・学で拓く自然共生社会　自然の豊かさは人や地域の豊かさにどうつながるのか？」	11/5	新潟大学中央図書館ライブラリーホール・オンライン
新潟大・金沢大・島根大　J-PEAKS連携シンポジウム『大気・陸域・海洋環境の広域連携による学際研究への展開』	12/25	金沢大学自然科学系図書館
新潟大学佐渡自然共生科学センター市民公開講座「離島から発信する森のおはなし ～研究者は語る in 佐渡～」	3/7	トキ交流会間・第ホール
2025年度 新潟大学佐渡自然共生科学センター 学生発表会	3/8	トキ交流会館

6 資料

6-1 報道関係

1) 新潟日報「クジラ　回収体長 4 メートル超…クジラの死骸、佐渡市・真野湾海岸に漂着　標本作りへ研究者ら慎重に骨回収」2025/5/20（阿部晴恵）（森）
2) サドテレビ「新穂地区生椿で一昔前の生活を振り返る」2025/5/20（共生）
3) 新潟日報「かつての「トキの聖地」生椿集落、学び伝え 元住民、移住者ら語らい」2025/5/27（共生）
4) 新潟日報デジタルプラス「佐渡島は「ヘビ王国」だった！「最多」7 種が棲み分け、共存の鍵「ニッチ分割」とは？」2025/6/9（阿部晴恵）（森）
5) 新潟日報「自然探求の島 佐渡」, 2025/6/15
6) サドテレビ ニュースアイランド「種火の会 じぶんのキャンパス Lios の取り組み紹介」2025/8/2（共生）
7) サドテレビ ニュースアイランド「佐渡 p4c おけさ 2025 の開催」2025/8/20（共生）
8) 文教ニュース,「科学技術振興機構『さくらサイエンスプログラム』友情と感激 第 463 回 新潟大学の活動報告」, 2025/10/27（川坂健人）（海）
9) 新潟日報, 佐渡自然共生環境保全へ一丸：市民、行政、企業、研究者らみらい会議, 2025/10/27（豊田光世）（CD 室）
10) NST 新潟総合テレビ「子どもたち“漁業体験”で地元の魅力を再発見！」, 2025/11/11（共生）
11) エスライフ「新潟大学佐渡自然共生研究主催 WS「地元の植物で布を染める」」, 2025/11/25（共生）
12) 新潟日報「将来の選択肢広げて…自然案内、草木の説明 畑野小中学生がガイド体験」, 2025/11/27（共生）
13) 新潟日報「小水力発電地域に活力」, 2025/12/4（豊田光世）（里山・CD 室）
14) 新潟日報「県の準絶滅危惧ミミズク「オオコノハズク」」, 2025/12/12（共生）
15) 福井新聞「考える力育む「p4c」：対話の手法実践で発表」, 2026/01/25（豊田光世）（里山・CD 室）
16) 新潟日報「ゴカイ新種　佐渡で発見」, 2026/2/25（海）

6-2 構成員

センター長/副センター長

安東宏徳・センター長　理学博士

専門分野：生殖内分泌学, 神経内分泌学
研究テーマ：産卵回遊魚の海洋環境適応の脳内メカニズム
所属学会：日本動物学会, 日本比較内分泌学会, 日本下垂体研究会, 日本水産学会, The Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology (AOSCE)
外部委員 : 新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議委員, 新潟県海岸保全基本計画検討委員会委員, 佐渡海区漁業調整委員会委員, 佐渡ジオパーク推進協議会調査・研究部会部員, 佐渡市環境アドバイザー
学術雑誌編集委員：Neuroendocrinology (Associate Editor), Fish Physiology and Biochemistry (Editorial Board), Frontiers in Experimental Endocrinology (Editorial Board)
外部講師：放送大学非常勤講師

梶本卓也・副センター長　博士（農学）

専門分野：森林生態学, 造林学
研究テーマ：樹木の成長機構, 森林の更新過程, 人工林の育成管理技術
所属学会：日本森林学会（プログラム編成担当理事）, 東北森林学会
外部委員：佐渡市環境アドバイザー, 岩手県久慈市白樺再生事業アドバイザー, 農林水産省委託プロジェクト研究（みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業）「日本全国の林地の林業採算性マトリクス評価技術の開発」運営委員, 令和 6 年度林野庁「森林整備保全事業推進調査」検討委員会委員
学術雑誌編集委員：Trees-structure & function (Editorial Board)

森林領域／演習林

梶本卓也・領域長・教授

本間航介・准教授　博士（理学）

専門分野：森林生態学，里山生態学，保全生態学

研究テーマ：高ストレス・高攪乱環境下における木本植物の更新戦略，里山複合景観が有する生態機能の定量的解明

所属学会：日本生態学会，種生物学会，日本植生史学会

外部委員：環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系コアサイト検討委員，環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系一般サイト検討委員，環境省・佐渡市 人・トキ共生の島づくり協議会副会長，新潟県トキ野生復帰アドバイザー，佐渡市環境アドバイザー，JaLTER（日本長期生態研究ネットワーク）佐渡サイト代表，静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター演習林教育関係共同利用拠点委員会委員

阿部晴恵・准教授　博士（理学）

専門分野：島嶼生態学，保全遺伝学，進化学

研究テーマ：島嶼における生物の進化，ツバキ属の種分化，生物間相互作用

所属学会：日本生態学会，種生物学会，日本ツバキ協会，国際ツバキ協会

外部委員：尾瀬保護財団理事，日本学術振興会科学研究費委員会専門委員，新潟県環境審議会水環境部会委員,京都大学生態学研究センター運営委員会及び共同利用運営委員会，「東京都の保護上重要な野生生物種（伊豆諸島）」改定に向けた専門部会委員，2026Island Biology Japan 実行委員，日本生態学会自然保護委員

外部講師：佐渡市環境アドバイザー

蕪木史弦・特任助手　修士（農学）

専門分野：保全生態学，保全遺伝学，地生態学，環境教育学

研究テーマ：希少動植物の適切な保全管理を目標とした生態・遺伝情報の解明，学生野外実習における環境教育の心理的効果の推定

所属学会：日本生態学会

外部講師：新潟農業・バイオ専門学校非常勤講師

崎尾 均・名誉教授（フェロー）　博士（理学）

専門分野：森林生態学，水辺林の生態と保全，樹木の生活史

研究テーマ：水辺の樹木の生活史戦略

所属学会：日本生態学会，日本森林学会，日本植物学会，植生学会，屋久島学ソサイエティ，IAVS

外部委員：植生学会企画委員，日本 MAB 計画委員会委員，只見町ユネスコエコパ–ク支援委員会委員長，只見町ブナセンター紀要編集委員，只見町沼ノ平総合学術調査団調査団長，佐渡ジオパーク推進協議会調査研究部会委員，佐渡文化振興ビジョン・アクションプラン検討委員会，佐渡市博物館協議会委員，佐渡市博物館ビジョン検討部会委員，佐渡市環境アドバイザー

外部講師：日本自然環境専門学校非常勤講師

本間大也・技術職員

濱田栄一・技術職員

岡田好明・技能補佐員

篠原徳之・技能補佐員（2025 年 4 月 1 日着任）

籔中真蒼・技能補佐員（2025 年 7 月 1 日着任）

濱辺英代・事務補佐員

相原美彩・自然科学研究科修士課程 2 年
研究テーマ：佐渡と本土における植物の網羅的な形態比較

岡田柚佳・自然科学研究科修士課程 2 年
研究テーマ：佐渡島の天然生スギ林における動態と攪乱の影響

清 稜太・自然科学研究科修士課程 1 年
研究テーマ：佐渡島の水田を利用する水鳥類のハビタット選好性の種間比較

深井こるり・自然科学研究科修士課程 1 年
研究テーマ：佐渡島に生息するモリアオガエル成体の移動ルートと生息環境の解明

宮﨑悠聡・自然科学研究科修士課程 1 年
研究テーマ：植物由来 DNA の河川への流入経路について

髙島滉己・農学部 4 年
研究テーマ：越後山脈におけるブナの高木限界の形成要因

蝦名来瑠・農学部 4 年
研究テーマ：佐渡島における天然スギの根株更新過程の研究

遠藤 翼・農学部 4 年
研究テーマ：屋久島におけるサツキの形態および遺伝的構造

難波岳利・農学部 4 年
研究テーマ：佐渡島の天然スギ林の生産力に及ぼす立地環境の解析

羽石笑佳・農学部 4 年
研究テーマ：佐渡島の旧薪炭林におけるナラ枯れ被害木が森林動態に与える影響

宮田雅也・農学部 4 年
研究テーマ：水田に進出したモリアオガエルの特異的な繁殖戦略の解明

吉原颯人・農学部 4 年
研究テーマ：ダケカンバの産地間格差が及ぼす攪乱後の萌芽様式と潜伏芽の関係

和田風斗・農学部 4 年
研究テーマ：地上型 LiDAR の点群データを用いた多雪地域天然林での積雪環境計測

里山領域／朱鷺・自然再生学研究施設

河口洋一・教授・領域長　博士（学術）（2025 年 9 月 1 日着任）
専門分野：保全生態学，河川生態学，空域生態学
研究テーマ：森里川海における生物・生態系間相互作用に関する研究
所属学会：日本生態学会、応用生態工学会、土木学会、日本湿地学会、Ecological Society of America、British Ecological Society、Freshwater Science
外部委員：環境省環境影響審査助言委員，環境省オジロワシ・オオワシ保護増殖検討会委員，北陸地方整備局越後平野生態系ネットワーク推進協議会委員，佐渡市生物多様性佐渡戦略推進委員会自然系・社会系ワーキングチーム委員，四国地方整備局吉野川・那賀川学識者会議委員，四国地方整備局河川・渓流環境アドバイザー，四国地方整備局吉野川生態系ネットワーク検討会委員，四国地方整備局那賀川流域地域ワーキング検討会委員，兵庫県コウノトリ野生化対策懇話会構成員
その他：認定 NPO 法人とくしまコウノトリ基金理事

豊田光世・教授　博士（学術）
専門分野：環境哲学，合意形成学，環境教育，対話教育
研究テーマ：環境共生社会の実現に向けた市民参画プロセスのデザイン
所属学会：日本環境教育学会，日本感性工学会，「野生生物と社会」学会，日本デザイン学会，The International Council of Philosophical Inquiry with Children
外部委員：日本学術会議連携会員（環境学委員会委員，環境学委員会環境思想・環境教育分科会委員長，自然環境分科会委員，フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会地球環境変化の人間的側面分科会委員，哲学委員会いのちと心を考える分科会委員），新潟県環境審議会委員，東京都アドバイザー，佐渡市世界農業遺産推進会議委員，佐渡市生物多様性佐渡戦略推進委員会社会系ワーキングチーム委員，佐渡市さど未来創造・戦略推進会議委員，佐渡教育コンソーシアム検討委員，佐渡市デジタル化推進検討懇談会委員・座長，佐渡市環境アドバイザー，人・トキ共生の島づくり協議会委員，新潟県立佐渡高等学校学校評議員，佐渡市立行谷小学校学校関係者評価委員，宮城教育大学上廣アカデミー運営委員
外部講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院非常勤講師，東京工業大学社会人アカデミー講師，
その他：一般社団法人岩首めぶきラボ理事，一般社団法人潟上未来会議理事，佐渡島加茂湖水系再生研究所運営チームメンバー

高津邦夫・准教授 博士（環境科学）
専門分野：動物生態学
研究テーマ：環境条件に応じた個体の特徴の変化とそれが生物間相互作用に与える影響について
所属学会：個体群生態学会，日本生態学会

佐藤雄大・特任助教　博士（農学）（2025 年 9 月 1 日着任）
専門分野：空域生態学，行動学，保全生態学
研究テーマ：レーダーを活用した飛翔動物の移動生態解明，コウモリ類の冬眠・繁殖生態に関する研究

梶田瑠依・特任助教　博士（農学）（2026 年 1 月 1 日着任）
専門分野：ライフサイエンス，生態学，環境学，動物行動学
研究テーマ：森林性ネズミによる虫害堅果採餌戦略とそれが森林更新に及ぼす影響の解明

祝前博明・フェロー，本学教育支援員　Ph.D.
専門分野：量的遺伝学，生物統計学，家畜育種学
研究テーマ：和牛の育種改良，トキ個体群の遺伝的多様性，ゲノム評価法
所属学会：日本畜産学会，日本鳥学会
外部委員：（公社）畜産技術協会事業推進委員会委員，（公社）全国和牛登録協会中央審査委員，など
外部講師：石川県立大学非常勤講師

永田尚志・名誉教授（フェロー）
専門分野：鳥類生態学，保全生物学
研究テーマ：トキの再導入生物学に関する研究，希少鳥類の保全，鳥類の繁殖戦略

池野達哉・特任専門職員

小林利彦・自然科学研究科修士課程 2 年
研究テーマ：国府川の地域環境史研究

漆原理心・自然科学研究科修士課程 1 年
研究テーマ：個体成長に伴って捕食者―被食者相互作用はどう変化するか

佐藤有純・自然科学研究科修士課程 1 年
研究テーマ：農村地域のトミヨ生息場管理と教育的活用

荻野真衣・農学部 4 年
研究テーマ：大学生の地域活動への参加と継続のプロセス：新潟大学「ダブルホーム」を事例に

嶋田実緒・理学部 4 年
研究テーマ：科学コミュニケーションにおける科学者と市民の認識的乖離の分析：佐渡島でのサイエンスカフェを事例に

海洋領域／臨海実験所
安東宏徳・領域長・教授

大森紹仁・助教 博士（理学）
専門分野：進化発生学，系統分類学
研究テーマ：棘皮動物の形態進化と海産無脊椎動物の自然史に関する研究
所属学会：日本動物学会，日本発生生物学会，日本海洋教育学会，日本生態学会
外部委員：佐渡市環境アドバイザー
外部講師：放送大学非常勤講師，慶應義塾大学非常勤講師

川坂健人・特任助教 博士（理学）
専門分野：動物行動学，行動生態学
研究テーマ：なわばり性魚類における社会行動と社会的認知
所属学会：日本動物行動学会，日本動物心理学会，日本魚類学会，日本生態学会
外部講師：放送大学非常勤講師，慶應義塾大学非常勤講師

下谷豊和・技術専門職員

小杉かおる・技能補佐員

本間 悟・事務補佐員

長部有沙・自然科学研究科博士課程 2 年
研究テーマ：ウミシダにおける間充織細胞の発生および分化の分子機構の解明

長谷川蓮・自然科学研究科修士課程 2 年
研究テーマ：佐渡島達者沖と真野湾の砂底における底生生物相に関する研究

堀井紘大・自然科学研究科修士課程 2 年
研究テーマ：日本近海産 *Anneissia* 属ウミシダ類の分類再検討

小和田颯汰・自然科学研究科修士課程 1 年
研究テーマ：海産魚における高水温による生殖抑制の神経内分泌機構

飛田崚馬・自然科学研究科修士課程 1 年
研究テーマ：佐渡島におけるアカシマコブウミシダの共生生物相と生殖生態の解明

Haphsa Khanom・自然科学研究科研究生
研究テーマ：クサフグの月周産卵リズムの調節機構：半日周発現遺伝子の解析

Shaharier Ahmed・自然科学研究科研究生
研究テーマ：底質環境 DNA による佐渡島周辺の底生生物相研究

相﨑一陽・理学部フィールド科学人材育成プログラム 4 年
研究テーマ：ビーチコーミングを活用した佐渡島真野湾の漂着生物相研究

佃壮留・理学部生物科学プログラム 4 年
　　研究テーマ：ニッポンウミシダ幼体の成長に伴う形態変化

コミュニティデザイン室
豊田光世・教授・室長
　　里山領域と兼任

梶田瑠依・特任助教
　　里山領域と兼任

濱田昌美・事務補佐員

里山共生研究部門
豊田光世・教授・研究部門長
　　里山領域・CD 室と兼任

Jasmine E Black・特任准教授
　　専門分野：オルタナティブフードシステム，自然共生，土壌科学
　　研究・活動テーマ：オルタナティブフードシステム，持続可能な里山の自然資源の管理

渡辺智美・特任助教
　　研究・活動テーマ：子どもたちの主体的な学びの支援

斎藤未沙・特任専門職員
　　研究・活動テーマ：子どもたちの学びを支援する地域ステークホルダーのネットワーク構築，子ども若者の就労支援

センター事務室
小出 徹・事務室長

伊藤航太・総務係長

高橋美由紀・事務補佐員

加藤聡子・事務補佐員

新潟大学 佐渡自然共生科学センター 2025（令和 7）年度年次報告書

発行日：2026 年 8 月 31 日

編集：佐渡自然共生科学センター 広報委員会（豊田光世, 本間航介, 依藤実樹子, 菅野萌）
発行：新潟大学 佐渡自然共生科学センター
https://www.sices.niigata-u.ac.jp